

所在地：高知県四万十市

選定年月日：平成21年2月12日

面積：5,303.6ha

選定基準：二(一)(三)(四)(五)(七)(八))

(1) 概要

四万十市は四万十川下流域に位置し、黒尊(くろそん)川流域、四万十川下流域、四万十川河口域から形成されます。

黒尊川流域は広大な森林資源を有し、一部の原生林が保護されるとともに、体験型学習の場として活用されています。

また、四万十川下流区域は、豊富な水量と広い川幅や河原を持ち、火振漁などの淡水漁業が行われています。中でも口屋内(くちやない)地区は、物資輸送において上流域と河口域を結ぶ中継地として栄え、現在もその痕跡を留めています。

四万十川河口区域は、四万十川本流のうち、四万十市入田から河口までの約13.5kmの区域とその河畔林及び下田を含む区域です。このうち、河口から約9km上流までが汽水域で、この水域の広さが豊かな生物相を育むとともに、川魚や藻類の生産を含む生業の場としての価値を高めています。また、河口部に位置する下田地区は、中世期から四万十川を介した積み出し港として発展しました。

このように、「四万十川流域の文化的景観 下流域の生業と流通・往来」は、四万十川下流域の多様な自然環境が生み出す豊かな恵みと、舟運などの流通・往来によって形成される文化的景観です。



下流域の四万十川



四万十川の観光船

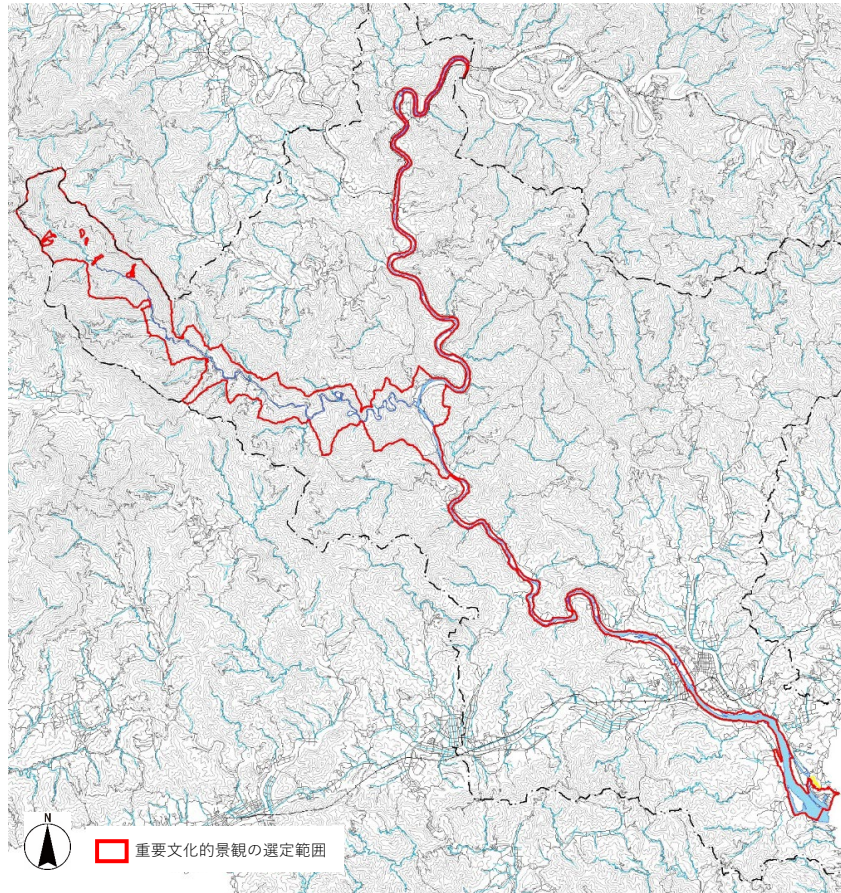


口屋内の集落



ライトアップされた沈下橋

（２）選定範囲



- 重要な構成要素：49件

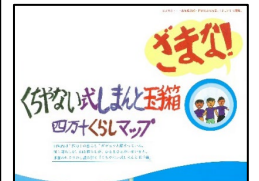
（３）選定による効果

選定後、重要文化的景観の保存や整備活用に関する計画の立案を行う中で、選定範囲となっている口屋内地区、下田地区などの集落において、地域住民をも巻き込んだ、まちあるきマップ作成のワークショップを行うことにより、文化的景観という視点を通じて、身近な暮らしの風景や景観について考える機会をつくり出すことができました。

また、四万十川流域という広いエリアの中で、重要文化的景観をどう守り育てていくかということについて、流域5市町が連携した事業を行うなど、市町を越えた取り組みが続けられています。



流域連携事業の学生キャンプ(平成27年度)



下田地区、口屋内地区のまちあるきマップ

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 四万十川流域の文化的景観「下流域の生業と流通・往来」保存活用計画（令和6年2月、四万十市）
- 重要文化的景観『四万十川流域の文化的景観 下流域の生業と流通・往来』整備活用計画書（令和2年3月、四万十市）
- ホームページ

<https://www.city.shimanto.lg.jp/soshiki/24/14716.html>

(5) 活用事例

四万十川流域の文化的景観
四万十川流域の文化的景観
四万十川流域の文化的景観
四万十川流域の文化的景観
四万十川流域の文化的景観

源流域の山村
上流域の山村と棚田
上流域の農山村と流通・往来
中流域の農山村と流通・往来
下流域の生業と流通・往来

(高知県津野町) No.39-01
(高知県梼原町) No.39-02
(高知県中土佐町) No.39-03
(高知県四万十町) No.39-04
(高知県四万十市) No.39-05

事例39-01~05 ①

5市町連携による一体的保護を進める「四万十川流域文化的景観連絡協議会」

文化庁補助金

●行政による取り組み

四万十川流域文化的景観連絡協議会は、流域の5市町と四万十川の清流保全・流域振興の活動をする(公財)四万十川財団及び高知県文化財担当課で構成し、文化的景観を守り育てることを目的に、情報交換や施策調整を行っています。

流域で統一したデザインのロゴマークやサインの策定(平成21年度)などに連携し取り組むことにより、市町をまたいだ選定範囲において一体感のある流域景観を生み出しています。

選定から10年以上が経過し流域全体としての文化的景観の価値や意味が十分共有されていないことに課題を感じるようになり、一体的な保存・活用を進めていくために5市町が連携し保存活用計画の改定に取り組みました。(令和3・4年度) 現在は、保存活用計画の改定を受け、整備活用計画の改定に連携しながら取り組んでいます。

また、文化的景観の効果的な情報発信事業として、サスティナブル・シマント(Sustainable Shimanto)という認証制度を設け、広く情報を発信・活用できるよう取り組んでいます。(令和4・5年度)



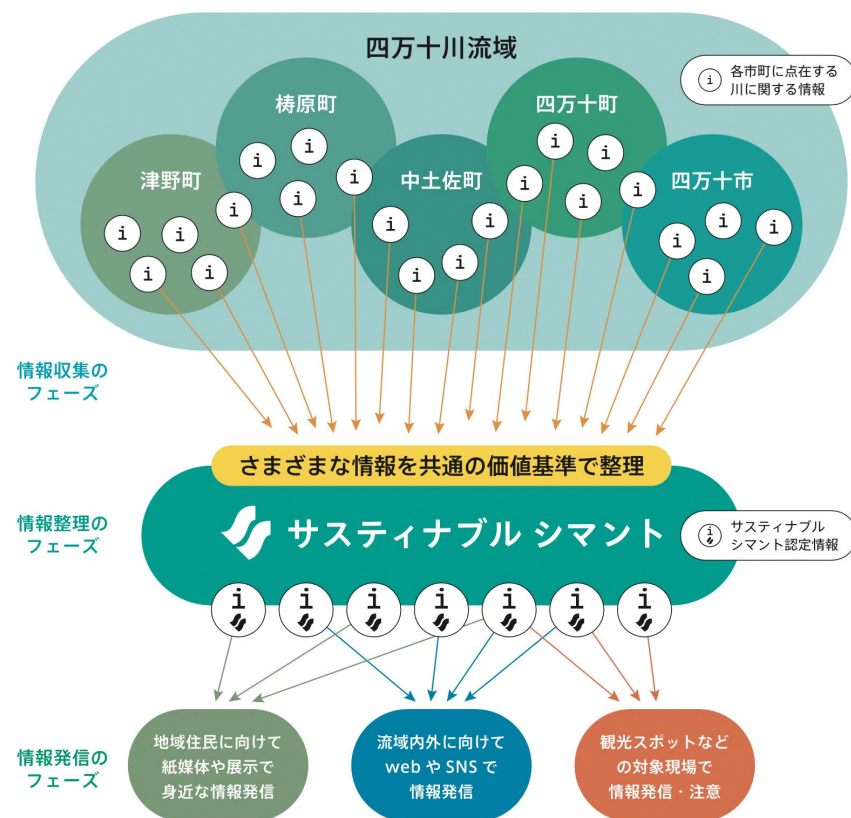
ロゴマーク



協議会の様子



5市町が連携し保存活用計画を改定



四万十川流域の情報発信事業サスティナブル・シマント

① 地域内での
魅力の共有

② 目標性の
共有

③ 広域外への
広報

④ 魅力を
引き出す

⑤ 確
保と
運用

⑥ 人
づく
り・

(5) 活用事例

四万十川流域の文化的景観
四万十川流域の文化的景観
四万十川流域の文化的景観
四万十川流域の文化的景観
四万十川流域の文化的景観

源流域の山村
上流域の山村と棚田
上流域の農山村と流通・往来
中流域の農山村と流通・往来
下流域の生業と流通・往来

(高知県津野町) No.39-01
(高知県梼原町) No.39-02
(高知県中土佐町) No.39-03
(高知県四万十町) No.39-04
(高知県四万十市) No.39-05

事例39-01~05 ②

流域市町による「四万十街道ひなまつり」

●行政と住民等の協働による取り組み

四万十街道ひなまつりは、平成18年から実施されているひなまつりで、四万十川流域を人々が行き交う街道に見立てて名づけられています。現在は流域の住民団体でつくる「四万十遺産ネットワークス」が主催しています。

実施にあたっては、津野町、梼原町、中土佐町、四万十町、四万十市、愛媛県松野町、愛媛県鬼北町の7市町が連携・協力しています。各市町では、様々な団体や施設が協力し、ひな人形の飾りつけを行い、地域内外からの訪問客を楽しませています。展示場では、イベントや地元で作られた物品の販売なども行われ、地域の活性化にも寄与しています。

ひなまつり展示会場に携わる住民の声

毎年、テーマを変えて飾りつけをしています。町内外の人が楽しみにしてくれています。また、町内で作られたものを販売し、とても好評なので、これからも連携を進めていきたいと思っています。

団体等情報：四万十遺産ネットワークス

代表 溝渕博彦様 携帯電話：090-8971-0456



船戸地区（津野町）



高樋沈下橋（中土佐町）



網代御殿（四万十市）



民家「おしどりの巣」
（梼原町）



雲旧都築邸（四万十町）



子どもたちなど、地域住民の笑顔が光る、ポスターとパンフレット

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 資源の
確保と運用

⑥ 人づくり・
育

（５）活用事例

事例39-05 ③

現地での体験を書き込んで作る、自分だけの地図「くろそん手帖」を通した魅力の共有

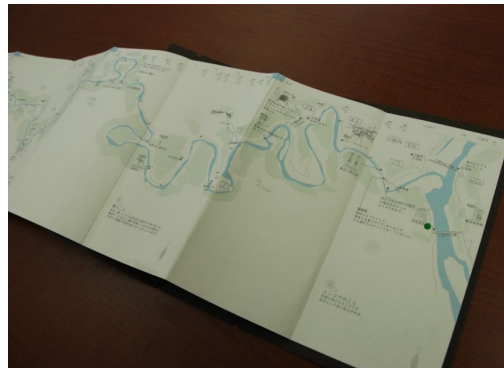
●住民や団体等による取り組み

平成17年、黒尊川流域で暮らす住民により「しまんと黒尊むら」が立ち上げられました。黒尊川流域の持続可能な地域づくりを目指し、黒尊まつりなどのイベント、生物の観察や生態家の保護のための活動など、川や暮らしに関する自主的な取り組みを続けています。

「くろそん手帖」地図づくり事業は「しまんと黒尊むら」と四万十市教育委員会とが連携して行った黒尊川区域の地図づくり事業です。

しまんと黒尊むらと市は、黒尊川流域の暮らしや文化、川の見方などについてワークショップを重ね、地図を使う人が実際に現地を訪れ、体験したことや気付いたことを各々が書き込み、自分だけの地図を作ることができる、黒尊川流域の白地図「くろそん手帖」が生まれました。

しまんと黒尊むらは、「くろそん手帖」の使い方を知ってもらうために、季節ごとに内容を変えた現地ツアーなども開催してきました。現地に深くかかわってきた人々に依頼し、経験をもとに地域を語っていくことにより、黒尊川流域での自然、歴史、文化を楽しんで学んでもらうような活動が続けられています。



くろそん手帖



黒尊川流域の植物を観察するツアー（春季）



黒尊川に入って水中を観察するツアー（夏季）



ツアー参加者が作成した「くろそん手帖」の展覧会

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり・
育て